【羅臼地域】

地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み

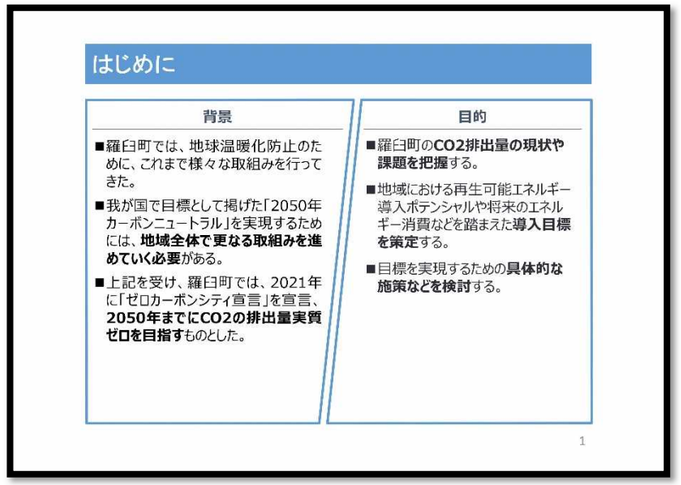
●人手確保対策（新規）

（1）水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）			関連資料
地域MVにおける取組の位置付け	【地域の目指す姿】 地域資源を活用した産業の振興 【主な取組】 各産業で深刻化している人手不足への対策、特に季節的な人手不足への対応	取組場所 	【取組の様子】
現状における取組実施の背景	人口減少は北海道内に限らず全国共通の傾向だが、羅臼町の人口減少率は北海道平均と比較しても高く、将来の人口動態を予測した人口ビジョンを上回る速さで人口が減少している。このため町内の各産業で人手不足が問題になっている。 人手が必要な時期に偏りがあり、事業者としては特定の時期に人手を確保したいと同時に通年雇用は難しいという事情がある。 異業種間で人手が必要な時期が重複しているため、異業種連携による通年雇用も困難なのが現状。		
取組により期待する効果	・人手不足の改善による産業振興 ・一定期間の町内滞在により地域をより深く知る関係人口の創出		
（2）取組内容・実施体制（Do）			
取組内容、方法、手順、実施体制	・短期アルバイトのマッチングサイト「おてつたび」を利用した人材募集を行い、宿泊、水産加工、漁業（陸上作業）で実際に就業者を確保することができた（右関連資料）。 ・マッチング成立時にサイト運営企業に支払う利用料および保険料は羅臼町が負担している。 ・「おてつたび」の活用について町広報誌および経済団体を通じて町内事業所に情報提供を行い、利用希望を町が集約して「おてつたび」で募集を行った。「おてつたび」掲載情報の編集は町が行った。 ・「おてつたび」の方針でもある関係人口の増加を目的の一つと位置づけ、雇用先には就業者に対し地域情報の提供や生活のサポート、休日のアテンドなどの対応を要請した。		
（3）効果項目に対する評価（Check）			
効果目標の達成度評価	・利用した事業所からの評価は高く、６年２～３月の流氷シーズンを想定した利用について複数の希望が出ている ・実際に就業した人からも高評価を受けており、再就業の希望も出ている ・漁業関連の陸上作業など、６年夏季における拡大が見込まれている		
反省点	・初の試みということもあって実施までの期間が短く、十分な準備期間を確保できなかった		
（4）取組の改善措置（Action）			
取組内容の改善点	・利用者（雇用側、被雇用側の両方）の意見感想を踏まえた改善の検討 ・町の負担内容と負担割合について検討		
取組の実施に必要なもの	・規模を拡大する場合業種によっては宿泊施設の確保等、受け入れ態勢の検討が必要になる		

●ゼロカーボンへの取組み（新規）

（1）水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）		
地域 MV における取組の位置付け	【地域の目指す姿】 環境保全と循環型社会の構築 【主な取組】 ゼロカーボンを目指す取組のひとつとしてブルーカーボンの可能性を検討	取組場所
現状における取組実施の背景	羅臼町は令和 3 年にゼロカーボンシティを宣言しており 2050 年の実現を目指している。 令和 5 年 2 月に「羅臼町再生可能エネルギー導入目標計画」を策定している（右関連資料）。 土地の少なさ、流氷の到来、希少鳥類の生息などから洋上を含む風力発電の導入は現状では困難と考えざるを得ない。他の再生可能エネルギーとしては地熱や太陽光が考えられるが、町の多くを国立公園が占めておりこちらも制約が多い中での検討となっている。 ゼロカーボン達成には二酸化炭素の吸収にも着目する必要がある。羅臼町はもともと海藻類の生息が多い地域だが、近年は磯焼けの進行や繁茂の不振により藻場が減少している。 羅臼町ではコンブは重要な漁業資源であり、やはり重要な漁業資源であるウニの餌でもある。また資源としては評価されていない雑海藻についても魚介類の産卵と稚仔魚の生息の場として再評価されている。 コンブをはじめ海藻類の増加と藻場の再生をはかり、ゼロカーボンの進展とコンブ資源の維持増大、魚介類生息環境の改善を目指す。	
取組により期待する効果	・ゼロカーボン達成に向けたブルーカーボンの推進 ・コンブ資源およびウニ資源の維持増大 ・藻場の回復拡大による沿岸域の魚介類生息環境の確保	
（2）取組内容・実施体制（Do）		
取組内容、方法、手順、実施体制	・令和 3 年度からウニ育成礁の整備を進めている（事業主体：北海道。6 年度完了予定）。コンブをはじめとする海藻類の繁茂を確認の上、ウニ種苗を放流して育成し、漁獲することを計画している。育成礁に繁茂する海藻類はブルーカーボンに算定できると考えている。 ・これまで羅臼漁協で試験的に実施してきた藻場造成事業の規模を令和 6 年度より拡大する。北海道に補助を要望するとともに町も補助を計画している。 ・藻場造成事業の効果調査を行い、効果を確認するとともにブルーカーボン算出の基礎データとする。	
（3）効果項目に対する評価（Check）		
効果目標の達成度評価	・現在は計画の段階であり効果の評価は事業実施後行う	
反省点		
（4）取組の改善措置（Action）		
取組内容の改善点	・藻場の状況は毎年変化するため、状況に応じて対応を検討する必要がある ・海水温の変化など環境変動を考慮した計画の検討	
取組の実施に必要なもの	・羅臼昆布の分布は羅臼町沿岸に限られており、地域の環境に応じた効果的な取り組みのために現地での研究を進める必要がある	

関連資料

【取組の様子】

羅臼町再生可能エネルギー導入目標計画（概要版。表紙と冒頭）